

小2国語 出題のねらいと対策

1 漢字の読みとり 97.5%

ねらい：漢字の正しい読み取りができるかを問う。

分析と対策：(4)「牛」は「牛肉」という熟語になると音読みの「ぎゅう」になることに注意させてください。

2 漢字の書きとり 84.4%

ねらい：漢字の正しい書き取りができるかを問う。

分析と対策：一画一画をていねいに書くように指導してください。とめ・はね・はらいなどは、新しい漢字が出るたびに注意させてください。

3 ていねいな言い方 92.5%

ねらい：常体と敬体とが正しく使い分けられるかを問う。

分析と対策：「です」「ます」について、「でし(た)」「まし(た)」、「でしよ(う)」「ましよ(う)」などと、後に続くことばによって形が変わることに注意させてください。また、(3)「読まなかった」を「読みませんでした」と表す場合のように、「ます」と「です」を組み合わせる言い方があることも指導してください。

4 主語とじゅつ語 75.0%

ねらい：「何が・どうする」「何が・どんなだ」「何が・何だ」という文の基本的な形の理解を問う。

分析と対策：主語と述語をつなげると意味が通る文になることを、選択肢のことばを一つずつつなげて確かめさせてください。

5 音やようすを表すことば 93.3%

ねらい：擬音語と擬態語について、その違いについて理解を問う。

分析と対策：擬音語と擬態語の違いは、実際にそのような音が出ているかどうかの違いです。(1)「きずぐちがヒリヒリといたむ」の「ヒリヒリ」は、実際にそのような音が聞こえるわけではないので、様子を表すことば(擬態語)です。(2)「紙をビリビリとやぶる」の「ビリビリ」のように、音を表すことばは、実際にそのような音が聞こえるかどうかを確かめさせてください。

6 せつ明文の読みとり 64.4%

ねらい：語句の意味や、文章の内容が正しくとらえられているかを問う。

分析と対策：(1)では、本文の幼虫の名前は何かという前提をおさえて、(2)(3)で幼虫の成長過程として本文に述べられていることをとらえます。オオスカシバは幼虫の時期にたくさん栄養を取り、さなぎの時期には何も食わず、成虫のときは花のみつをすうだけとなります。それを踏まえたうえで、(4)ではさなぎがなぜ何も食わなくてよいのか、(5)では成虫がどんな役割を果たしているのか、について本文から読み取ります。(6)の内容一致問題は、選択肢の一つひとつを本文と照らし合わせて、どの部分が本文と合っていて、どの部分が合っていないかを確認させてください。

全体の平均点は79.7点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。